

国語

イメージする・想像する

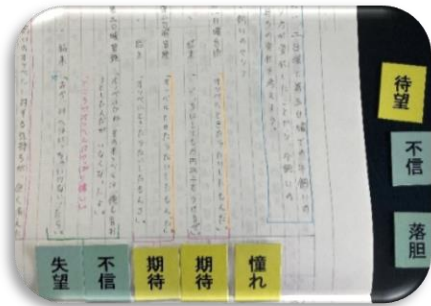
<困難さ>	<指導の工夫の意図>
物語の中で登場人物の立場で考えたり他者の感情を理解したりすることが難しい	行動や会話文に気持ちが込められていることに気付くことができるように



<手立て>

気持ちの変化が分かる文章の中のキーワードを示す

- 感情を示すキーワードや表情が書かれたカードを用意する。



ポイント！

肯定的イメージと否定的イメージ等、言葉の性質や役割で色分けして示すとよりイメージしやすい。

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
漢字を覚えることが難しい	漢字の構成を理解して覚えることができるように



<手立て>

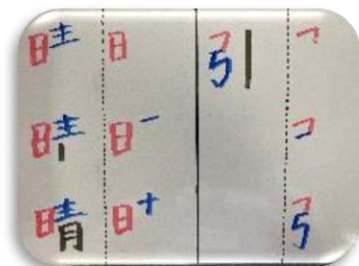
① 漢字を「へん」や「つくり」等に分けて覚える

- 「へん」「つくり」、部首等に色分けしたカードを使って組み合わせる。



② 書き順を色で示す

- 書き順を色で示したカードを使用する。




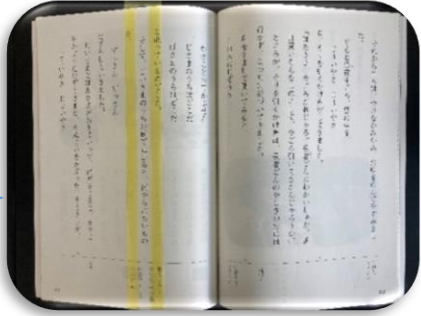
ポイント！

「その児童生徒に合った覚え方」を、一緒に考え、試行錯誤することで「覚え方」を見つけることができる。

読む・読み取る


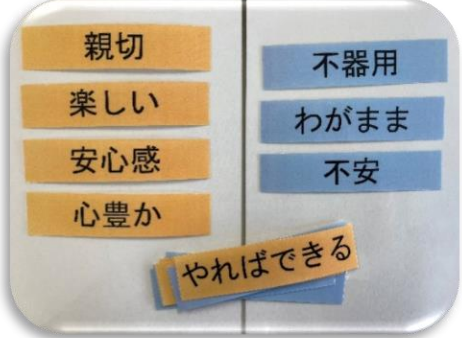
<困難さ>	<指導の工夫の意図>
文章を目で追いながら音読や黙読をすることが難しい	自分がどこを読むのかが分かるように



<手立て>		
<p>① 指等で文字をなぞる</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み始めの部分に指先などを合わせる。その後、音読の速度に合わせて指を動かす。 	<p>② 文字を認識しやすくする</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を拡大することで、文字を大きく、行間を広げる。 <p>ポイント! 学習者用デジタル教科書の活用も有効な手立ての1つである。</p> <p>ポイント! スリットに透明な素材を使うことで前後の文の関係が捉えやすくなる。</p>	<p>③ 範囲の焦点化をする</p> <ul style="list-style-type: none"> スリットを活用して視覚に入る情報を抑制する。 

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
文章を読み取ったり要約したりすることが難しい	文章の内容をイメージできるように



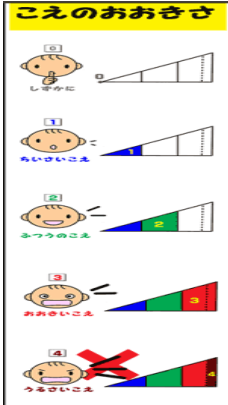


<手立て>	
<p>① 具体的にイメージできるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 話のイメージ（流れ）をつかみやすいように、ポイントとなる場面のイラスト（挿絵）を追加する。 物語の読み取りにおいては、気持ちを表す言葉をカードに書いて示す。  <p>ポイント! 視覚的に示すことで、比喩表現にも着目できるようにすることが大切である。</p>	<p>② 文章の内容のキーワードを明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 比喩やイメージを表す言葉は分かりやすいように同じ色のカードにして視覚的に示す。  <ul style="list-style-type: none"> 文のまとまりごとのキーワードを付箋に書き出し、グループごとに並べ替えをして視覚的に整理する。

話す・聞く

＜困難さ＞	＜指導の工夫の意図＞
声の大きさや話す速さなどを調整することが難しい	丁度よい声の大きさと速さがあることに気付くことができるように



＜手立て＞

① 手本を示す ・いろいろな声の大きさを聞き、丁度よい声の大きさに気付くように促す。 	② 丁度良い速さのリズムをつかむ ・語句の区切りや間の取り方を手拍子にして伝える。 	③ ICTを活用する ・発表を録音し、本人が確認できるようにする。 
---	--	--

ポイント！
「相手に伝える」「話す内容を明確にする」等の目的を意識して取り組むことが重要である。

気持ちを表現する

話す・聞く

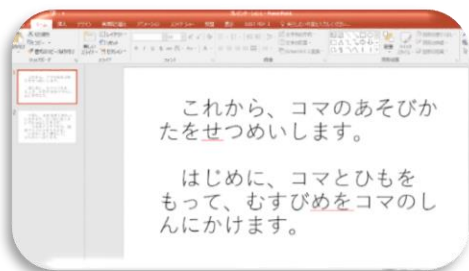
＜困難さ＞	＜指導の工夫の意図＞
声に出して発表することや人前で話すことに不安を抱いてしまう	自分の考えを安心して伝えることができるように



＜手立て＞

多様な表現方法を選択することができるようにする

- ・ミニホワイトボードに書いて黒板に貼る。
- ・プレゼンソフトでスライドに入力し、電子黒板に写す。



ポイント！
本人が取り組むことができる表現方法を選択し、発表に取り組むという経験を積み重ねることで達成感、不安の軽減につながる。



- ・授業者や仲間が聞き取り、その内容を他の児童・生徒に伝える。
- ・タブレット端末等に入力した文の読み上げ機能を活用する。

書く(描く)・書きとる

気持ちを表現する

<困難さ>

文章で表現することが難しい

<指導の工夫の意図>

表現したい内容をイメージしたり
書く順番を決めたりすることができるように

<手立て>

① 多様な表現方法を整理する

- ・ 図(表やウェイビングマップ等)やイラストで表現してから文章にする。



ポイント!

イラストを動かしながら場面を想像することで、事柄の順序に沿って書くことを、より意識することができる。

② 言葉や短文をメモしたカードを活用する

- ・ メモした短冊カードの順番を並び替えながら文章にする。



- ・ 「伝えたい事」「説明」の2文構成、「伝えたい事」「理由」「例」「まとめ」の4文構成等のフォーマットを活用する。

書く(描く)・書きとる

<困難さ>

鉛筆を正しく持って書くことが難しい

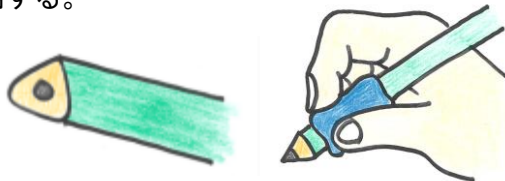
<指導の工夫の意図>

鉛筆を正しく持ったり、それぞれに適した書き方を選んだりすることができるように

<手立て>

① 正しく持つことで鉛筆が動きやすくなることに気付くようにする

- ・ 市販の補助具などを活用する。
- ・ 線のなぞりをする。
- ・ 塗り絵を活用する。



ポイント!

正しく鉛筆を持つことで、「書きやすい」「上手に鉛筆を動かすことができる」と実感できることが重要である。

② ICT機器を活用して文章を書く

- ・ ワードプロソフトやプレゼンソフトを活用する。

③ 書く文字の量を減らす

- ・ ノートに書き記す事柄の軽重が分かるように板書の文字の色を変える。
- ・ 授業終了後に板書を撮影する。
- ・ ワークシートを活用する。(板書と形式をそろえ、内容の軽重に留意して作成し、個別に対応する。)